

草 枕

藤 村

1872 ~ 1943

身を朝雲にたとふれば	心の宿の宮城野よ
ゆりべの雲の雨となり	離れて熱き吾身には
身を夕雨にたとえれば	日影も薄く草枯れて
あしたの雨の風となる	荒れたる野こそうれしけれ

されば落葉と身をなして	ひとりさみしき吾耳は
風に吹かれて飄り	吹く北風を琴と聴き
朝の黄雲にともなはれ	悲しみ深き吾日には
夜の河を越えてけり	色彩なき石も花と見き

道なき今の身なればか  
われは道なき野を慕ひ  
思い離れてみちのくの  
宮城野にまで迷ひきぬ

~「若菜集」より

鹿

西 行 法 師

1118 ~ 1190

萩が枝の露ためず吹く秋風に牡鹿なくなり宮城野の原

松 島

そもそもことぶりにたれど、松島は扶桑第一の好風にして、およそ洞庭、西湖を恥ぢず。東南より活を入れて江の中三里、浙江の潮をたたふ。島々の数を尽してそばだつものは天をゆびさし、ふすものは波にはらばふ。あるいは二重にかさなり、三重にたたみて左にわかれ右につらなる。負へるあり、いだけるあり、児孫愛すがごとし。松の緑こまやかに枝葉潮風に吹きたわめて、屈曲おのづからためたるかごとし。その景色宛然として美人のかんばせをよそほふ。ちはやぶる神のむかし大山つみのなせるわざにや。造花の天工、いずれの人か筆をふるひ言葉を尽さん。

(奥の細道より)

藤 村

松島瑞巖寺に遊び葡萄栗風の木彫を觀て

舟路も遠し瑞巖寺  
冬道遙のころなく  
古き扉に身をよせて  
飛驒の名匠の浮彫の  
葡萄のかげにきて見れば  
菩提の寺の冬の日  
刀悲しみ鑿愁ふ  
ほられて薄き葡萄葉の  
影にかくるる栗風よ  
姿ばかりは隠すとも  
かくすよしなし鑿の香は  
うしほにひびく磯寺の  
かねにこの日の暮るるとも  
夕闇かけてたたずめば  
こひしきやなぞ甚五郎

~「若菜集」より



## 福島・吾妻スカイライン・磐梯高原

### 福島付近の地理・地学

福島盆地はかつては養蚕の地として知られたが現在は果物の産地として知られる。これら果物の分布と地形との関係を見るとナシは扇状地の砂礫層に多く。桃は阿武隈川の氾濫原や盆地周辺の斜面地に多く。リンゴは盆地内の畠や水田中に見られる。盆地のほぼ中央には石英粗面岩からなる273mの信夫山がある。

福島は県庁所在地で板倉氏の城下町として発達した。

### 吾妻連峰の地理・地学

#### ○東吾妻火山群の主な山

一切経山 (1948.9m)	周囲の火口からの火山砕屑物が積み重なった火口を吹く
東吾妻山 (1947.7m)	アイスランド型楕状火山の形、森林に覆れる爆発が一時期で終り、火口が円錐形を残している、溶岩と砕屑物が互層を成す成層火山
吾妻小富士 (1704.6m)	
高山 (1804.8m)	

火山活動の歴史は新しく最近では昭和25年(1950)の硫黄山東斜面の火山活動があり55~60年周期でくりかえすようである。一切経、吾妻小富士は裸地が多い。

#### ○西吾妻火山群の主な山

西吾妻山(2024)、東大嶺(テン)(1927.8)、西大嶺(1981)等、東に比べ火山活動の歴史が古く全山樹林に覆われている。これらの山容は高原状を呈し山中には小爆裂火口湖の桶沼、五色沼、火口原湖の鎌沼などがあり、弥平兵平、谷地の平、鳥子平などの湿原があり高山植物が群生している。

#### ○吾妻連峯の植物

- ・低山帯(クリ帯)平地~500m 土湯温泉、高湯温泉、猪苗代町等、クリ・フナラの雑木材多くアカマツ少し
- ・山地帯(ブナ帯)標高500~1500m 中腹地帯  
ブナが広く発達、他にミズナラ、イタヤカエデ、トチ、カツラ
- ・亜高山帯(アオモリトドマツ帯)1500~1900m山頂に近い地帯

八の内

